

## 巻頭言

利益ある持続的成長への  
再発進に向けて

取締役 代表執行役社長

佐々木 則夫  
SASAKI Norio

東芝創業135周年の東芝レビュー技術成果号の発刊に際し、一言ごあいさつ申し上げます。

リーマンショックを機に顕在化した世界経済危機の影響を受け、去年は当社もたいへん厳しい年となりました。この危機を乗り越え、グローバル競争力を持つトップレベルの複合電機メーカーを目指して、本年を“構造転換元年”と決意し、利益ある持続的成長に向けて再発進しているところであります。

昨年来、NAND型フラッシュメモリを主力商品とする電子デバイス事業をはじめ、事業の選択と集中、徹底したコストダウン、開発の効率化などに努めた結果、業績回復の兆しが見えてまいりました。また、傘下のウェスティングハウス社が米国や中国で最新鋭の加圧水型原子炉API1000™を多数受注し、既に中国では建設も順調に進んでいます。国産の改良型沸騰水型原子炉ABWRも米国で初めて受注するなど、社会インフラ事業も成長基調となってまいりました。

一方、ハイビジョン液晶テレビ レグザ (REGZA)™は、超解像の美しい映像で好評を博し、高いシェアをいただくことができ、また、昨年末には、圧倒的なパフォーマンスを実現したCELLレグザ™も商品化いたしました。

更に、持続可能な社会の実現に向け、世界トップレベルの環境・エネルギー技術を駆使し、太陽光発電や、スマートグリッド、二次電池、バイタル&ヘルスケア関連など、次の時代をつくる新たな事業にもチャレンジしております。

これらの事業展開にあたっては、時代感覚と構想力に裏打ちされた「イマジネーション」を働かせ、当社に脈々と流れている“モノづくりのDNA”と“飽くなき探究心と情熱”をもって「イノベーション」を起こし、経営にあたっては、健全性と誠実さを備えた「インテグリティ」を追求し、東芝ならではの製品やサービスを次々と世に送り出し社会に貢献してまいり所存です。

引き続き、皆さまのご支援とご鞭撻（べんたつ）を賜りますようお願い申し上げます。